

## はにい 『海のいのちとふれ合う』 令和3年9月13日

「わぁ！こんな所に何かが密集してる。」「気持ち悪くて触れないよ！」  
今日は、小学校3・4年生約40名が、近くの磯で「いのちの授業」を受けています。

「この危険生物は知っているかな？」

「ヒョウモンダコ！」「スベスベマンジュウガニ！」

講師の方からの質問に、子どもたちは、大きな声で答えます。

注意事項を確認し、いよいよ、生き物探しが始まります。

「先生！先生！ヤドカリがいっぱいたよ！」

「あれ？なんかこのヤドカリちがうね。」カゴに入れ、講師の方に見てもらいます。

「ヤドカリもこの辺だけで数種類いるんだよ。」

「ヤドカリって1種類じゃないんだ。」目で見て、手で触れて、そのちがいを感ずます。



「きゃー、ナマコから、卵が出てきた！」

「それは内臓だよ！身を守るための行動なんだって！」

10分も過ぎると、最初は気持ち悪くて触れないと言っていた子どもたちが、汗だくになって、大きな石をひっくり返し、様々な種類の生き物を捕まえています。

あっという間に終了の時間。講師の周りに集まります。

「このカニを見てごらん。」

「あっ、卵がついてる！」「こっちも卵？形が違うけど。」

「そっちのは卵じゃないんだ、なんだと思う？」

「もしかして、寄生虫？」

「そうだよ。よくわかるね。」

「怖い！」「取ってあげようよ！」子どもたちは寄生虫を悪者扱い。

「恐がる気持ちもわかるけど、単独で生きる生き物なんていないかもしれないよ。」

講師の言葉に息をのむ子どもたち。「不思議なことに、この種類のカニだけに寄生虫がつくんだよ。」

子どもたちは、数種類のカニを見比べます。「本当だ！見た目はそんなに変わらないのに何でだろう。」「栄養があるからかな？」「気になる、どうやって調べたらいいんだろう？」

生き物たちの「いのち」の多様性が、子どもたちを刺激し、主体的な学びへと導きます。

『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合きましょう。

《発見》 こんな学びの場面が見られました。



子どもたちは、靴底に産み付けられたらせん状のナマコの卵を見つけて驚いています。



人工的な靴底に根付くたくましい「いのち」から、事前事業で学んだ環境問題、SDGs、身近なゴミ問題について考えを巡らせていました。

ご意見・ご感想は → [inochi4027@pref.kanagawa.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.jp)